

2015 年（平成 27 年） 段ボールの需要予測

全国段ボール工業組合連合会

2015 年（暦年） 段ボール需要予測 13,800 百万 m² 前年比 101.0%

2014 年の国内経済は、消費増税後の景気情勢が予想された以上に悪く GDP 成長率は 7-9 月期マイナスとなり、2014 年度予測も大幅に下方修正されたが、原油価格の下落、円安・株高の進展により 10-12 月期はプラス成長となると予想されている。

段ボール需要は 2014 年 1-3 月は消費増税前の仮需で前年比 107.7%と大きく伸びたが、4 月以降はその反動で 4-10 月累計で前年比 99.8%と前年を少し下回っている。2014 年 1-12 月累計では 1-3 月の大きな伸びが寄与して、2013 年 12 月に全段連が公表した予測前年比 101.0%を上回る前年比 101.5%程度となる見込みである。

民間調査機関による 2015 年度の実質 GDP 成長率予測としては概ねプラス 1.5%程度となっており、2015 年度は消費増税の延期、原油価格の下落、円安・株高の進展により景気は明るさを増していくと見られている。

このような段ボール需要動向、経済見通しを考慮して 2015 年（暦年）の段ボール需要を 13,800 百万 m²（前年比 101.0%）と予測した。

期間別内訳は、1 - 3 月は前年の大幅増の反動でマイナスとなり、4 月以降は前年を上回ると見て、1 - 3 月 98.0%、4 - 9 月 102.0%、10 - 12 月 102.0%と予測した。

主な需要部門別動向としては、「加工食品用」は、昨年夏場の異常気象による減の反動で清涼飲料が増えると見込み、健康志向を背景にした特保飲料や乳製品にも期待が持て、1%以上の伸びと予測。「その他」分野は紙おむつ、高齢者向けや海外向けの衛生用品、ペット関連商品等引き続き好調と予想され、1%強前年を上回ると予測。「青果物用」は農業人口減少や少子化により伸びが期待できない分野であるが、食の安全問題での国産品へのシフトもあり、天候に左右される面が大きい、前年並みと予測。「電気器具・機械器具用」は円安による国内生産増、外需が堅調で自動車関連は輸出が好調といったプラス要因はあるが、海外生産移管の影響も残り、前年並みと予測。「通販・宅配・引越し用」は引き続きネット販売を中心に好調さを継続し、段ボール需要も増えると予測。

以上

段ボール生産量推移

